

2011年8月19日

各位

旭化成ファーマ株式会社
旭化成株式会社

スイスActelion社との訴訟における第一審判決について

旭化成株式会社（本社：東京都千代田区、社長：藤原健嗣）の子会社である旭化成ファーマ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：浅野敏雄）では、旭化成ファーマが開発した Rho-kinase 阻害剤である「ファスジル」のライセンス契約に関連して、スイス国 Actelion 社およびその関連会社・役員を被告とする損害賠償請求訴訟を米国において提起していましたが、このたび訴えが認められ、被告らに対して総額 516.6 百万米国ドルの支払いを命ずる第一審判決が下されましたので、お知らせします。

1. 経緯

旭化成ファーマは、CoTherix 社との間で「ファスジル」に関する開発・販売権を供与するライセンス契約を 2006 年 6 月に締結しました。2007 年 1 月に Actelion 社が CoTherix 社を買収し、それ以降 CoTherix 社が「ファスジル」の開発を中止したため、2008 年 11 月に旭化成ファーマは、Actelion 社およびその関連会社・役員に対して、被告らが不法に開発を止めさせたことを理由として損害賠償を求める訴えを米国カリフォルニア州サンマテオ郡地方裁判所に提起していました。

なお、CoTherix 社に対しては、ライセンス契約の違反に基づく損害賠償を求めて国際商工会議所（ICC）において仲裁手続を行い、2009 年 12 月、約 91 百万米国ドルの支払いを CoTherix 社に命ずる裁定を得て、旭化成ファーマが既に全額を受領しています。

2. 今後の見通し

旭化成グループの連結業績への影響額については、今後の訴訟動向を踏まえ、最終的に確定したのちに速やかに開示します。

<参考>

Actelion社の概要

1997 年に設立されたスイス国バーゼル市に本社を置く製薬企業（2010 年度連結売上高 1,929 百万スイスフラン）。主力製品は、肺高血圧治療薬の「トラクリア」。

Rho-kinase

Rho-kinase は、細胞内情報伝達に関与するリン酸化酵素で、血管平滑筋の収縮・弛緩をコントロールする生体機能分子として、近年、注目を集めている。血管平滑筋に存在する Rho-kinase が異常に活性化されると、血管平滑筋の収縮が亢進され、その結果生じる血流障害により組織の機能異常が起こる。Rho-kinase 阻害剤である「ファスジル」は、血管平滑筋の収縮を抑制するとともに、付随して起こる組織障害を効果的に改善することができる。